

歯科医師・歯科医療従事者集団研修会

目的

かかりつけ歯科医として、障害者歯科医療を地域に普及させるために必要な知識を修得する

対象

歯科医師・歯科医療従事者（歯科衛生士・歯科技工士等）

年間テーマ

地域での障害者・高齢者歯科への対応
より良い地域完結型の障害者歯科医療を目指すために

日程・カリキュラム

第1回：平成22年 4月18日（日）

10:00～12:00 ①在宅診療を取り巻く環境 ー医科から歯科への提言ー

あおぞら診療所上本郷

院長 川越正平

高齢者社会に伴い在宅や施設における訪問診療のニーズが高まっている。訪問診療先において、チーム医療を効率よく行う上で、医科をはじめ他職種の歯科に対する考えを知ることは必要と思われる。今回医科の視点より歯科治療の必要性や口腔機能に関する問題点を知り、より良い訪問診療へと繋げる。

13:00～15:00 ②訪問歯科診療時の実践的問題点とポイント

新谷歯科医院

院長 新谷浩和

訪問歯科診療の現場では、患者とその家族への対応、治療方法、口腔ケア等で様々な問題が生じられる。それらを解決するためには、訪問歯科診療の基礎知識、訪問診療を円滑に進めるための流れを理解することが重要である。今回これらのことを学ぶために訪問歯科診療の実践的な知識を深める。

第2回：平成22年 5月16日（日）

10:00～12:00 ③不定愁訴患者への対応 ー日常臨床において的確な診断を行うためにー

日本大学歯学部口腔診断学教室

教授 今村佳樹

歯科には様々な患者が来院するが、これまでの通常の歯科治療では、症状を改善できない場合がある。その中に患者の持つ心理社会的ストレスや精神的な問題が関係しているケースがある。歯科医が愁訴に対して上記の問題を考慮しないで処置を行った場合は解決できないばかりか、悪化させてトラブルに発展することも少なくない。今回、不定愁訴患者の見分け方と対応における注意点を知り、的確な診査、診断へ結びつける。

13:00～15:00 ④口腔癌の早期発見ポイント

鶴見大学歯学部第一口腔外科

講師 川口浩司

ここ数年、医療の進歩に関わらず口腔癌の5年生存率の変化がみられない。これは口腔癌の診断に到るまでの期間が長く癌の進行例が多いと言われている。生存率を上げるためには、一般歯科医院において口腔癌を早期発見し、専門医療機関へ紹介することが重要である。そこで今回、口腔癌の原因、症状について正しく理解し、早期発見のポイントへとつなげる。

第3回：平成22年 6月27日（日）

10:00～12:00 ⑤高齢者の精神疾患 ～認知症を中心に～

慶應義塾大学病院精神・神経科

医長 田 渕 肇

高齢社会に伴い高齢者特有の精神疾患患者が増加している。今回、精神疾患の中で特に見受けられる認知症についての原因、症状や対処法について理解し、日常の臨床へと活かす。

13:00～15:00 ⑥高齢者におけるインプラントの現状 ～ケアを含めた歯周治療の立場から～

明海大学歯学部口腔生物再生医工学講座

歯周病学分野 准教授 辰 巳 順 一

現在、歯が欠損した場合の治療法としてインプラント治療の幅は広がっており、高齢者へのインプラント治療も増加している。そこで、高齢者に対するインプラント治療時での全身のおよび局所的注意点を理解し、治療後のインプラント周囲炎への対処法、良好な口腔ケア、さらに看護下でのアフターケアなどについて学ぶ。

会場・定員・受講料

会 場：東京都立心身障害者口腔保健センター 8階 研修室

（東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ8階）

飯田橋駅下車徒歩2分（JR総武線：西口／地下鉄有楽町線・東西線・南北線、都営大江戸線：B2b出口）

定 員：40名

受講料：無料

受付期間

随時受け付けます。

問い合わせおよび申し込み

東京都立心身障害者口腔保健センター 研修担当

TEL：03-3235-1141〔受付時間：月～金 9:00～17:00〕

URL：http://www.tokyo-ohc.org/